富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第13集

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告(2)

竹ノ内Ⅱ遺跡(長野地区)
柳田遺跡
井ノ口城跡
下山新東遺跡
下山新遺跡

2001年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、新潟県・富山県・石川県・福井県・滋賀県の５県を通り、東は長野新幹線、西は東海道新幹線に連結する計画路線です。北陸地方の発展、活性化を担う高速交通網として地元の期待を受け、現在工事が進められています。

当埋蔵文化財調査事務所では、平成８年から日本鉄道建設公団の委託を受け、新幹線建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地について試掘確認調査をしてまいりました。今年度は、下新川郡朝日町内の５カ所の調査を行いました。

本書は、竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）、柳田遺跡、井ノ口城跡、下山新東遺跡、下山新遺跡の範囲や時代、遺存状態を把握するために実施した試掘確認調査の結果をまとめたものです。この調査の結果が今後の全面発掘調査と遺跡の理解・研究の助けになれば幸いであります。

最後になりましたが、今回の調査にあたり多大なるご助力を賜りました関係各位に深く御礼申し上げます。

平成13年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長　桃野真晃

例　言

1　本書は平成12年度に朝日町南保、大家庄、井ノ口及び下山新地内の北陸新幹線建設予定地内で実施した埋蔵文化財包蔵地の試掘確認調査の報告書である。
2　調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が日本鉄道建設公団からの委託を受けて実施した。
3　調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査員は次の通りである。
　調査第二課課長狩野　睦、同係長酒井重洋、同主任島田美佐子、
　同文化財保護主事深堀　茜、町田　賢一、野口雅美
　また、富山県埋蔵文化財センター調査課主任高梨清志氏のご指導・協力を仰いだ。
4　本書の編集は野口が担当し、執筆は酒井、島田、町田、野口が行った。
5　出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目　次

序
例言
目次
Ⅰ　位置と環境 …… 1
Ⅱ　調査の経緯 …… 1
Ⅲ　調査の結果 …… 4
　1　竹ノ内Ⅱ遺跡 …… 4
　2　柳田遺跡 …… 7
　3　井ノ口城跡 …… 8
　4　下山新東遺跡 …… 13
　5　下山新遺跡 …… 14
引用参考文献 …… 18
写真図版
報告書抄録

図・表目次

第1図 調査対象地と周辺の遺跡 …… 2
第2図 竹ノ内Ⅱ遺跡トレンチ位置 …… 5・6
第3図 柳田遺跡トレンチ位置 …… 9・10
第4図 井ノ口城跡トレンチ位置図 …… 11・12
第5図 下山新東遺跡トレンチ位置図 …… 15・16
第6図 下山新遺跡トレンチ位置図 …… 17

第1表 調査結果一覧 …… 1
第2表 調査対象地と周辺の遺跡一覧表 …… 3
第3表 竹ノ内Ⅱ遺跡トレンチ一覧 …… 4
第4表 柳田遺跡トレンチ一覧 …… 7
第5表 井ノ口城跡トレンチ一覧 …… 8
第6表 下山新東遺跡トレンチ一覧 …… 13
第7表 下山新遺跡トレンチ一覧 …… 14
第8表 平成12年度試掘確認調査一覧 …… 18

Ⅰ　位置と環境

越中・飛騨・信濃の境にある鷲羽山に源を発し、日本海へ注ぐ黒部川は、川下に大量の砂礫を運び、大きな扇状地を形成している。今年度の調査対象地である黒部川右岸には、扇頂部の宇奈月町愛本から朝日町元屋敷の海岸にかけて標高250～500mの丘陵が連なり、その山裾には発達した河岸段丘がみられる。また、北側の丘陵から発する舟川・小川が、複雑な地形の複合扇状地を作り出している。この黒部川右岸の丘陵の山裾や段丘に沿って縄文時代や中世の遺跡が立地する。縄文時代の遺跡としては、段丘端部に国指定史跡の不動堂遺跡、段丘上には県指定史跡の愛本新遺跡・坪野遺跡がある。また、海岸を臨む丘陵の尾根には舟見城・横尾城・宮崎城など中世の山城が築かれており、舟川・小川に面した低位段丘上には中世以降継続して集落跡や寺院、城館などが散在する。かっては古代北陸道の佐味駅が現在の入善町泊付近にあり、古くから越後への交通の要所として栄えていたと思われる。

黒部川扇状地は現在でも水田の多い農業地帯であるが、古代・中世にもいくつかの荘園が存在したようである。入善町のじょうべのま遺跡を、「東大寺領丈部荘」あるいは「西大寺領佐味荘」「西大寺領佐味西荘」に比定する説がある。

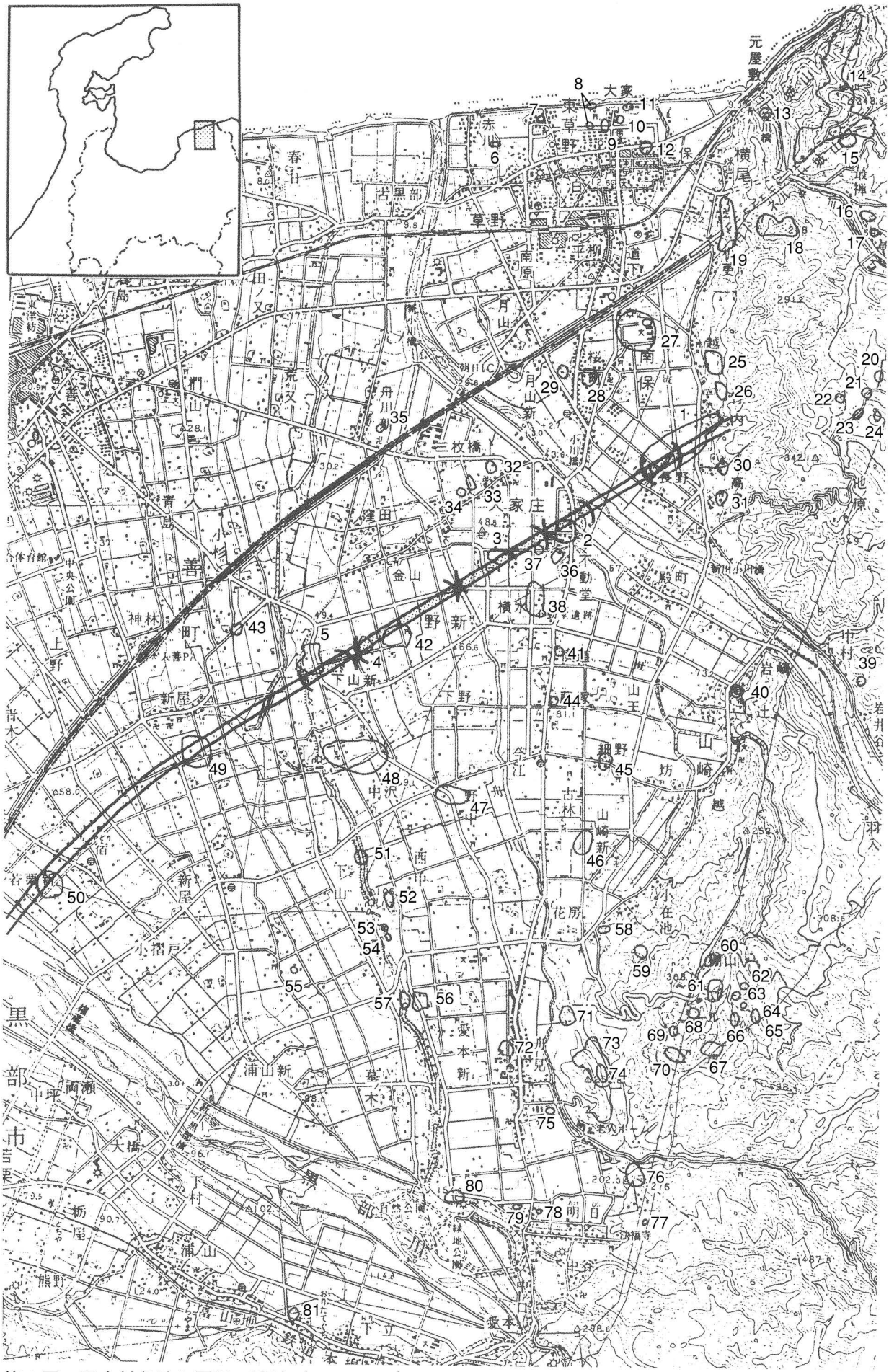
今回調査した５遺跡は、竹ノ内Ⅱ遺跡長野地区が小川右岸の山裾に、柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡は黒部川右岸の東側に連なる中位段丘の端部に位置している。

Ⅱ　調査の経緯

北陸新幹線の建設予定地内に存在する埋蔵文化財包蔵地は、昭和60年・平成７年に富山県教育委員会文化課（現文化財課）と富山県埋蔵文化財センターによって行われた調査で県東部の19ヶ所、県西部の11ヶ所が確認されている（周知の遺跡を含む）。建設に先立ち用地内遺跡の試掘確認調査の要望が県文化財課に寄せられた。日本鉄道建設公団と県文化財課両者の協議の結果、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所に調査を依頼することになった。これを受けて、平成８年度には小矢部市下川原遺跡、平成11年度には入善町ＨＳ－11遺跡・ＨＳ－12遺跡と朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡南保地区の調査を実施した。また、工事着工が急がれる工区の柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡の調査を、平成12年度に実施することとなった。調査は竹ノ内Ⅱ遺跡長野地区が平成12年４月17～20日の４日間、柳田遺跡他４遺跡が平成12年10月16～27日の9.5日間で行った。以下に調査の概要を記す。

遺　跡　名	対象面積	調査面積	遺跡の有無	遺跡推定面積
竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）	11,520㎡	1,047㎡	有（古代・中世）	古代・中世重層　3,216㎡ 中世　7,005㎡
柳　田　遺　跡	11,340㎡	754㎡	有（縄文・中世）	7,320㎡
井　ノ　口　城　跡	12,960㎡	865㎡	無	
下　山　新　東　遺　跡	22,680㎡	2,664㎡	有（縄文）	1,447㎡
下　山　新　遺　跡	3,420㎡	496㎡	有（縄文）	5,190㎡

第１表　調査結果一覧



第１図　調査対象地と周辺の遺跡（1：50,000）

番号	名　称	所　在　地	県地図番号	種　別	時　代	備　考
1	竹ノ内Ⅱ遺跡	朝日町竹ノ内・長野	343087	散布地	古代・中世	平成11年試掘調査
2	柳田遺跡	朝日町大家庄字柳田	343063	集落	縄文(前～晩)・中～近	昭和49・平成3年発掘調査
3	井ノ口城跡	朝日町井ノ口	343088	城館	中世	
4	下山新東遺跡	朝日町下山新	343068	集落	縄文(前～晩期)	昭和52年試掘調査
5	下山新遺跡	朝日町下山新字馬坂	343069	集落	縄文(中・後期)	昭和47・48・50・51年発掘調査
6	東草野Ⅰ遺跡	朝日町東草野	343039	散布地	中世	昭和61年試掘調査
7	東草野Ⅱ遺跡	朝日町東草野	343038	散布地	中世	昭和62年試掘調査
8	大家遺跡	朝日町大家字出端	343037	散布地	平安・中世	昭和61年試掘調査
9	大家東Ⅲ遺跡	朝日町大家	343036	散布地	中世・近世	昭和62年試掘調査
10	大家東Ⅱ遺跡	朝日町大家	343035	散布地	古墳・中世	昭和61・62年試掘調査
11	大家東Ⅰ遺跡	朝日町大家	343034	散布地	中世	昭和61年試掘調査
12	三浦遺跡	朝日町泊字中三坪	343033	散布地	縄文(後・晩期)	
13	宮崎焼窯跡	朝日町元屋敷字亀田	343027	窯	江戸(末期)	
14	宮崎城跡	朝日町元屋敷字城山	343026	山城	平安(末期)～安土桃山	昭和40年県指定遺跡
15	臼ヶ谷古墓	朝日町笹川字臼ヶ谷	343091	墓	鎌倉	
16	北野台遺跡	朝日町笹川字北野	343029	散布地	旧石・縄文(早～中期)	
17	最禅坊跡	朝日町笹川字最禅	343030	寺院	中世	
18	横尾城跡	朝日町横尾	343028	山城	中世	
19	横尾遺跡	朝日町横尾字棒の勝	343090	散布地	縄文(中期)	
20	中ノ沢遺跡	朝日町笹川字中ノ沢	343049	集落	縄文(中期)	
21	水坪Ａ遺跡	朝日町笹川	343050	散布地	縄文(前～中期)	
22	鳥が平遺跡	朝日町笹川字菖蒲谷	343051	散布地	縄文(中期)	
23	水坪Ｂ遺跡	朝日町笹川	343052	散布地	縄文(前～中期)	
24	水坪Ｃ遺跡	朝日町笹川	343053	散布地	縄文(中期)	
25	越遺跡	朝日町越	343047	散布地	縄文(中期)	
26	竹ノ内遺跡	朝日町竹ノ内	343048	散布地	不明	
27	町南保遺跡	朝日町越	343042	散布地	古代・中世	
28	南保城跡	朝日町桜町	343045	城館	室町(末期)	
29	古館城跡	朝日町桜町	343046	城館	中世	
30	清水遺跡	朝日町清水	343054	散布地・寺院	中世	
31	高畠城跡	朝日町南保字大館	343055	城館	鎌倉(初期)	
32	館ノ城跡	朝日町三枚橋字館	343060	城館	室町	昭和51年試掘調査
33	天戸遺跡	朝日町三枚橋	343061	散布地	中世	昭和51年試掘調査
34	天香寺遺跡	朝日町三枚橋	343062	寺院	室町	昭和51年試掘調査
35	舟川新遺跡	朝日町舟川新	343058	散布地	不明	
36	不動堂北遺跡	朝日町不動堂	343064	散布地	縄文(後期)	
37	柳田古墓	朝日町柳田	343065	墓	中世	昭和49年発掘調査
38	不動堂遺跡	朝日町不動堂字三宝	343066	集落	縄文(中・後期)	昭和49年国指定遺跡
39	岩井谷洞穴	朝日町南保字岩井谷	343056	洞窟	室町	
40	辻遺跡	朝日町辻	343057	散布地	不明	
41	横水一里塚	朝日町横水	343070	散布地	江戸	昭和42年町指定遺跡
42	高橋遺跡	朝日町窪田字高橋	343067	塚？	縄文(中・後期)・近世	昭和52年試掘調査
43	富士塚遺跡	入善町小杉	342003	集落？	室町	
44	藤塚古墳	朝日町藤塚字大野	343071	集落	古墳	
45	細野遺跡	朝日町細野	343072	集落	不明	
46	今江遺跡	朝日町山崎新・入善町	343086	散布地	縄文(中期)	
47	野中遺跡	入善町野中	342005	散布地	縄文	
48	中沢遺跡	入善町中沢	342004	散布地	縄文(中・後期)	
49	ＨＳ－１２遺跡	入善町新屋	342018	散布地	近世	平成11年試掘調査
50	ＨＳ－１１遺跡	入善町小摺戸	342019	散布地	中世?	平成11年試掘調査
51	下山峠遺跡	入善町下山	342007	散布地	縄文	
52	西中遺跡	入善町西中	34208	散布地	縄文	
53	下山地蔵遺跡	入善町字地蔵	342009	寺院	不明	
54	下山八幡社遺跡	入善町字地蔵	342010	寺院	鎌倉	
55	新屋島遺跡	入善町新屋字島	342011	散布地	縄文(後期)	
56	愛本新遺跡	宇奈月町愛本新	341001	集落	縄文(中～晩期)	昭和45年県指定遺跡
57	坪野遺跡	入善町下山字坪上	342012	散布地	縄文(中～晩期)	昭和40年県指定遺跡・平成元年試掘調査
58	山崎花房遺跡	朝日町山崎字花房	343073	集落	縄文(中期)	
59	栃木山遺跡	朝日町山崎字栃木山	343074	集落	縄文(中期)	
60	棚山Ａ遺跡	朝日町棚山	343075	散布地	縄文	平成3年試掘調査
61	棚山Ｆ遺跡	朝日町棚山	343089	散布地	縄文	平成3年試掘調査
62	梅木大平Ａ遺跡	朝日町棚山	343080	集落	縄文(前・中期)	平成3年試掘調査
63	梅木大平Ｂ遺跡	朝日町棚山	343081	散布地	縄文(前・中期)	平成3年試掘調査
64	梅木大平塚	朝日町棚山	343082	散布地・墓	不明	
65	梅木大平Ｃ遺跡	朝日町棚山	343084	塚	縄文・近世	
66	舟見焼棚山窯	朝日町棚山	343083	窯	江戸(末)～明治(初)	平成3年試掘調査
67	棚山Ｅ遺跡	朝日町棚山	343079	散布地	縄文(中期)・平安	平成3年試掘調査
68	棚山Ｂ遺跡	朝日町棚山	343076	散布地	縄文(中期)・平安	平成3年試掘調査
69	棚山Ｃ遺跡	朝日町棚山	343077	塚	不明	
70	棚山Ｄ遺跡	朝日町棚山	343078	散布地	縄文	平成3年試掘調査
71	舟見尾寄遺跡	入善町下山字尾寄	342013	散布地	縄文	
72	舟見中学校庭遺跡	入善町舟見	342014	散布地	縄文(中期)	
73	舟見城跡	入善町舟見字狐平	342016	山城	室町	平成2年試掘調査
74	舟見狐平遺跡	入善町舟見字狐平	342015	散布地	縄文(中期)・戦国	平成2年発掘調査
75	舟見小柴遺跡	入善町舟見字小柴	342017	散布地	室町	
76	明日Ａ遺跡	宇奈月町明日	341004	散布地	縄文	
77	明日Ｂ遺跡	宇奈月町明日	341005	散布地	縄文	
78	明日Ｃ遺跡	宇奈月町明日	341006	散布地	縄文	
79	愛本小学校遺跡	宇奈月町愛本新	341003	散布地	不明	
80	風野遺跡	宇奈月町愛本新字風野	341002	散布地	縄文(後・晩期)	平成12年発掘調査
81	下立遺跡	宇奈月町下立字沖	341009	散布地	縄文(中・後期)	

第２表　調査対象地と周辺の遺跡一覧表

Ⅲ　調査の結果

1．竹ノ内Ⅱ遺跡

調査対象地

竹ノ内Ⅱ遺跡は、県境から続く山地裾より、西側の台地上に位置する。現況は、水田である。一帯は、昭和38年頃からほ場整備が行われ、標高の高い東側ほどその影響を強く受けている。調査範囲は、山裾から県道山崎・泊までの南保地区（対象面積5,000㎡・試掘トレンチ７本）を昨年度、県道山崎・草野線までの長野地区（対象面積11,520㎡・試掘トレンチ16本）を今回の調査で行った。

基本層序

Ⅰ　層	現耕作土	暗灰黄色シルト（20cm）
Ⅱ　層	盛土	灰色シルト、黄褐色粘質土（10cm～30cm）
Ⅲ　層	中世遺物包含層	暗灰黄色シルト、灰オリーブ色シルト・粘質土（10cm～40cm）
Ⅳ　層	中世遺構検出面	褐色シルト、灰オリーブ色シルト・粘質土（20cm～30cm）
	古代遺物包含層	黄褐色シルト・粘質土
Ⅴ　層	古代遺構検出面？	黄褐色シルト
Ⅵ　層	地山	礫、にぶい黄褐色砂質土・粘質土

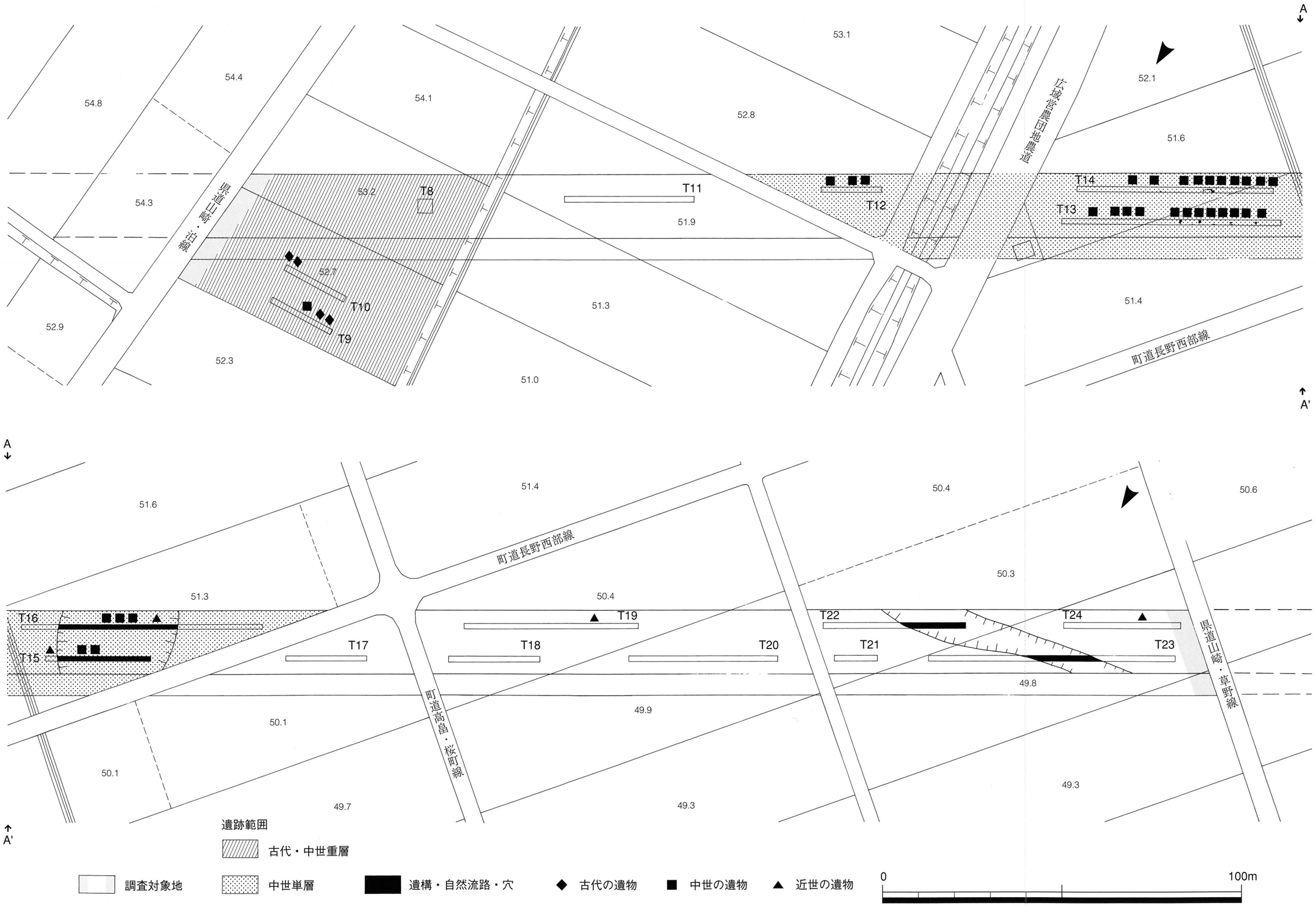
調査結果

Ｔ９・10ではⅠ～Ⅴ層が堆積し、昨年度調査した南保地区より続く古代・中世の遺物包含層を検出した。また、付近からは土師器・須恵器・珠洲などを表採した。Ｔ８は、盛土の深さ２ｍほどで湧水したため、掘削を断念した。Ｔ８・９・10は、遺構の検出はなかったが、隣接する南保地区と同じ層の広がりがみられることから古代・中世２面の文化層の存在が想定される。Ｔ11では、ほ場整備による掘削の影響でⅠ・Ⅱ層の下にⅢ～Ⅴ層は堆積していなかった。Ｔ12ではⅠ～Ⅳ層、Ｔ13～16ではⅠ～Ⅳ・Ⅵ層が堆積しており、Ⅲ層から中世の遺物（珠洲・中世土師器）が出土している。Ｔ13では柱穴と考えるピット８基、Ｔ14では円形に巡ると考える溝・土坑２基を検出した。Ｔ16ではＴ14から続くⅥ層（礫）が一段下がった落ち込みの中でピット16基を検出した。このうちの１基からは、珠洲甕の破片が出土している。Ｔ17～24では、Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ層（礫）の堆積で遺物包含層はなかった。Ⅵ層（礫）上面で溝や谷を検出したものの、ほ場整備前の流路と考えられる。

以上のことから、本調査の対象は、ほ場整備による削平部分を除いた東は県道山崎・泊線から西は町道長野西部線までの間となる。よって本調査対象面積は、7,005㎡となり、古代・中世重層分3,216㎡を加えると延べ面積は、10,221㎡となる。

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土遺物	備考
T8	4.0	2.0	－	－	湧水のため、包含層確認できず
T9	19.5	0.3	－	土師器・珠洲・中世土師器・青花	古代・中世の遺物包含層を確認
T10	19.5	0.4	－	土師器	古代・中世の遺物包含層を確認
T11	36.0	0.7	－	－	圃場整備による削平
T12	18.0	1.0	－	中世土師器・青磁・炉壁・不明陶器	中世の遺物包含層を確認
T13	62.0	0.6	穴8	土師器・珠洲・中世土師器・青磁・白磁・前・唐津・羽口	中世の遺構・遺物包含層を確認
T14	56.0	0.5	穴2・溝1	中世土師器・珠洲・白磁・瓦器・越中瀬戸・鉄滓	中世の遺構・遺物包含層を確認
T15	29.5	0.5	－	中世土師器・珠洲・越中瀬戸	
T16	68.0	0.4	穴16	中世土師器・珠洲・越中瀬戸	中世の遺物包含層を確認
T17	23.0	0.4	－	－	中世の遺構・遺物包含層を確認
T18	26.0	1.1	－	－	
T19	50.0	0.5	溝2（近世以降）	伊万里・越中瀬戸	
T20	43.0	0.4	－	－	
T21	13.5	0.4	－	－	
T22	42.0	0.5	－	－	
T23	67.5	0.4	－	－	谷の肩部
T24	33.0	0.4	－	伊万里	谷の肩部

第３表　竹ノ内Ⅱ遺跡トレンチ一覧



第2図　竹ノ内Ⅱ遺跡トレンチ位置図（1：1000）

2．柳田遺跡

調査対象地

柳田遺跡の調査範囲は、小川左岸から町道大家庄・藤塚線までの間で、現況は水田・一部宅地で、対象面積は11,340㎡である。一帯は昭和49年に県営ほ場整備事業に先立つ緊急発掘調査が行われている。試掘トレンチは小川と山合川の間に５本、主要地方道朝日・宇奈月線以西に17本と計22本を、路線敷きに平行または直交するように設定した。

基本層序

Ⅰa 層	現耕作土	暗灰黄色シルト（10cm～20cm）
Ⅰb 層	整地土	黒褐色シルト（10cm～20cm）
Ⅱa 層	中世遺物包含層	暗オリーブ褐色シルト（10cm～20cm）
Ⅱb 層	縄文時代遺物包含層	黒みが強い黒褐色シルト（10cm～20cm）
Ⅲ 層	縄文時代遺構検出面	にぶい黄色粘質土・黄褐色砂礫

調査結果

調査範囲東側の小川と山合川の間に設定したＴ１～５は、耕作土直下が砂礫層となっており、小川の氾濫原であったと推定される。調査対象地の中央にあたるＴ６～10ではⅡａ・Ⅱｂ層が比較的良好な状態で遺存していた。しかし、ほ場整備によって各田面の切土側にあたる各トレンチの南西側は削平を受けている模様である。特に対象範囲の高位にあたる西側のＴ12～Ｔ20においては、現耕作土・整地土直下が砂礫層となっており、包含層は遺存しなかった。遺物包含層は、Ｔ８から白磁片が出土したことから中世のⅡａ層と縄文時代のⅡｂ層に分けられる。従ってⅡｂ層上面を中世の遺構検出面と推定はできるが、Ⅱa・Ⅱｂ層がともに残っているトレンチにおいての土層の断面観察では明確な中世の遺構は検出できなかった。

遺構はＴ６～９・21のⅢ層上面、および断面観察において縄文時代のものと考える溝・土坑・穴が多数見つかっている。また、Ｔ12ではⅡ層上面から掘り込まれる溝と、Ⅱ層が落ち込む谷の肩部を検出している。遺物は、縄文土器・叩石・石刀、珠洲・白磁が出土している。縄文土器は小破片がほとんどだが、縄文時代後期後半から晩期の特徴をもったものが見られる。珠洲は甕とⅣ期(14世紀)の鉢が出土している。

対象範囲の中で今回調査ができなかった主要地方道朝日・宇奈月線の両側の宅地部分については、道路から東側は一段低くなっており、周辺を踏査した結果遺物の散布も認められなかったことから、この範囲は本調査の対象外と考えられた。しかし、道路の西側については、試掘調査の状況から遺物包含層がのびている可能性が高く、本調査の対象となり得ると考える。従って今回の試掘調査によって本調査の対象となるのは、朝日・宇奈月線西からＴ12の水田までの7,320㎡である。また、この対象範囲においては、縄文時代と中世の２時期の遺構の存在が予想される。

3.井ノ口城跡

調査対象地

井ノ口城跡は柳田遺跡の西側に隣接し現況は水田・宅地である。調査範囲の中で中央の宅地部分が微高地となっており、その西側は舟川に向かって傾斜している。試掘トレンチは宅地部分をはずし、対象範囲の東西の両端に計25本を設定した。調査対象面積、12,960㎡である。

基本層序

Ⅰa 層	現耕作土	黒褐色シルト（10cm～20cm）
Ⅰb 層	整地土	黒褐色シルト（10cm～30cm）
Ⅱ 層	遺物包含層(縄文時代？)	黒色シルト・暗褐色シルト（10cm～20cm）
Ⅲ 層	地山	にぶい黄色粘質土・明褐色粘質土・黄褐色砂礫

調査結果

調査範囲の大部分のトレンチにおいて原耕作土・整地土直下がⅢ層の砂礫層となっている。遺跡の中央から東側のＴ１～15の範囲においては特にほ場整備による切土・盛土が著しい。遺跡西側の

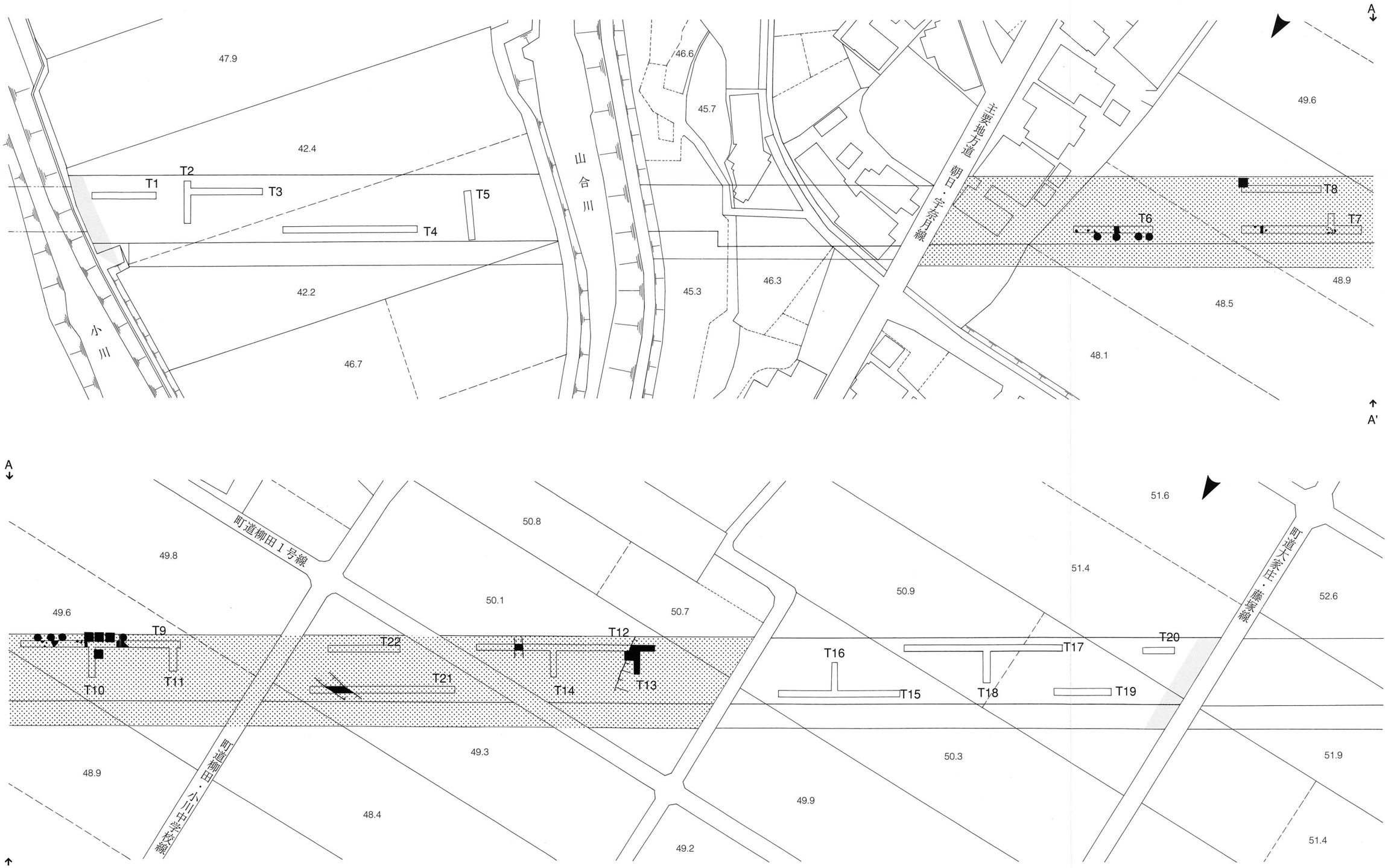
T18・19では比較的安定して遺物包含層と推定されるⅡ層が遺存していたが、ほ場整備による転圧の影響が認められる。T20西側ではⅢ層が西に向かって傾斜し、それ以西はかっての舟川の旧川道と推定される。遺構は溝・谷・落ち込み・穴などが見つかってはいるが、ほ場整備前の新しい時期のものか、性格がわからないものが多い。遺物もT12・18のⅡ層から縄文土器の小片、叩石が出土しているにすぎない。従って、今回の試掘調査においては、遺物包含層の遺存状況が悪く、遺物の出土もわずかで遺跡の性格・範囲を特定することはできなかった。今回調査ができなかった宅地部分については、宅地移転後に試掘確認調査をする予定である。

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土遺物	備考
T1	17.0	0.5	−	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T2	12.0	0.3	−	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T3	19.0	0.3	−	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T4	35.0	0.4	−	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T5	13.0	0.3	−	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T6	21.0	0.8	土坑1・穴3	縄文土器	
T7	32.0	0.6	溝1・穴12	縄文土器・珠洲	
T8	19.0	0.6	−	縄文土器・叩石・白磁	Ⅱa層から白磁出土
T9	43.0	0.7	溝1・土坑2・穴7	縄文土器・石刀・珠洲	
T10	7.0	0.6	−	珠洲	
T11	6.0	0.7	−	−	Ⅱ層なし
T12	47.0	0.3	溝1・谷1	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T13	5.0	1.1	谷1	珠洲	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T14	7.0	0.3	−	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T15	31.5	0.6	−	−	Ⅱ層なし
T16	7.0	0.6	−	−	Ⅱ層なし
T17	42.0	0.5	−	−	Ⅱ層なし
T18	6.0	0.5	−	−	Ⅱ層なし
T19	13.5	0.3	穴4	−	Ⅱ層なし
T20	7.5	0.3	−	−	攪乱あり
T21	34.0	0.4	溝1・穴4	越中瀬戸	
T22	19.0	0.4	−	−	

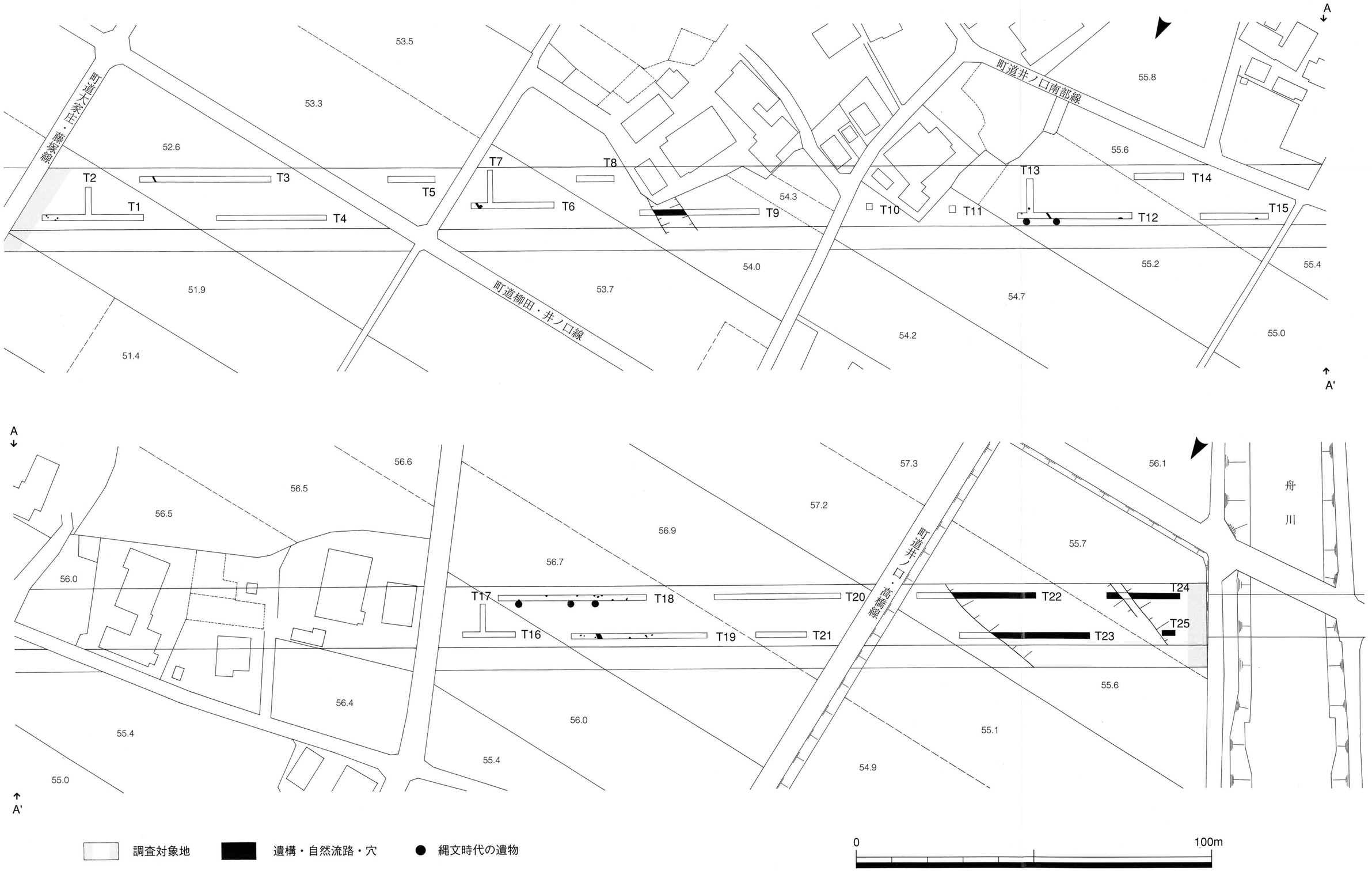
第4表　柳田遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土遺物	備考
T1	28.0	0.4	穴4	−	
T2	7.0	0.4	−	−	Ⅱ層なし
T3	36.0	0.6	谷	−	幅18.5mの谷、新しい
T4	30.5	0.9	谷	−	T3から続く谷
T5	13.5	0.3	−	−	Ⅱ層なし、地山砂礫層
T6	23.5	0.2	溝1・穴1	−	
T7	8.0	0.7	−	−	
T8	7.0	0.5	−	−	Ⅱ層なし
T9	33.0	0.2	溝1・穴3	−	
T10	2.0	0.3	−	−	Ⅱ層なし
T11	2.0	0.3	−	−	Ⅱ層なし
T12	33.5	0.5	溝1・穴2	縄文土器	一部攪乱
T13	7.5	0.7	−	−	
T14	14.5	0.3	穴?1	−	Ⅱ層なし
T15	17.5	0.5	穴1	−	
T16	14.0	0.4	−	−	Ⅱ層なし
T17	7.0	0.4	−	−	Ⅱ層なし
T18	43.0	0.4	穴?10	縄文土器・叩石	
T19	38.0	0.5	土坑1・穴7	−	
T20	37.0	0.6	谷	−	舟川の旧河道か
T21	11.0	0.2	谷	−	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T22	34.0	0.3	谷	−	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T23	37.0	0.5	谷	−	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T24	21.5	0.4	谷	−	Ⅱ層なし、舟川の旧河道か
T25	3.0	0.3	谷	−	

第5表　井ノ口城跡トレンチ一覧



第3図　柳田遺跡トレンチ位置図（1：1000）



第4図　井ノ口城跡トレンチ位置図（1：1000）

4．下山新東遺跡

調査対象地

黒部川右岸の低位段丘の中央を流れる舟川の西側縁辺部に位置する、高橋遺跡（県遺跡台帳343067）を含む延長約1.3kmが調査対象である。段丘上は開折された小さな谷が連なり、その間に見られる微高地上に遺跡が点在すると考えられる。標高は、東端の段丘中央部の舟川付近で57m、西側の黒部川よりのT33付近で約60mである。

基本層序

Ⅰ　層	現耕作土・盛土	黒褐色土又はシルト（20cm～80cm）
Ⅱ　層	縄文時代の包含層	黒色粘質土又はシルト（10cm～30cm）
Ⅲ　層	縄文時代の遺構検出面	黒褐色土又はシルト、暗褐色土（20cm～30cm）
Ⅳ　層	地山	黄褐色粘土又は円礫を含む明褐色粗砂層

調査の結果

対象地は、昭和40年代から50年代に行われたほ場整備のため著しく削平を受けた部分が見られる。

路線幅17mの対象地に水田毎に試掘溝を設け遺跡の有無を確認した。T1～4・7・12・21・26・28・33では、Ⅱ・Ⅲ層は削平を受け確認されず、地山の上にほ場整備時の盛土、現耕作土の順に堆積していた。また、Ⅱ・Ⅲ層が確認されるのはT22・23・29・30部分だけでその他の場所では耕土下がⅢ層となっている。

調査ではⅢ層上面、地山面で溝や風倒木痕などが確認され、溝はほ場整備以前の水路や自然流路と考えられた。また、T4では風倒木痕の中から縄文時代前期の土器がまとまって出土したが、それ以外に遺構などは確認されなかった。

遺物は、Ⅱ層からの出土で、遺構検出面はⅢ層上面と考えられる。T3・4・20・22・24・29・30・32・33から縄文土器が出土したが、T23・24とT29・30付近を除き包含層は認められない。T23・24で縄文時代晩期、T29・30で縄文時代後期の土器が出土した。またT32・33では、近世の家の跡と考えられる柱穴などが検出され、18世紀頃の伊万里・唐津・越中瀬戸の出土をみた。

調査対象地の中で縄文時代の遺物包含層、遺構検出面が認められたのは、T23・24付近とT29・30付近の2ヶ所である。本調査の対象となるのはそれぞれ789㎡と658㎡となり、合わせて1,447㎡である。また、T32・33にみられる宅地跡は、江戸時代のものであり調査の必要はないと考えられる。

トレンチ番号	全長（m）	掘削深度（m）	検出遺構	出土遺物	備考
T1	32.8	0.6	－	－	Ⅱ・Ⅲ層なし
T2	48.4	0.4	－	－	Ⅱ・Ⅲ層なし
T3	29.0	0.4	－	縄文土器・伊万里	Ⅱ・Ⅲ層なし
T4	76.8	0.8	風倒木・溝	縄文土器・珠洲・伊万里	Ⅱ・Ⅲ層なし
T5	41.5	0.6	溝	－	Ⅱ層なし
T6	79.6	0.8	－	－	Ⅱ層なし
T7	36.0	0.8	－	－	Ⅱ・Ⅲ層なし
T8	70.7	0.6	－	－	
T9	42.5	0.5	－	－	
T10	76.0	0.4	風倒木	－	Ⅱ層なし
T11	58.0	0.6	溝・穴	現代陶磁器	Ⅱ層なし
T12	18.2	0.4	－	－	
T13	66.5	0.6	風倒木・穴	－	Ⅱ層なし
T14	68.5	0.6	溝・穴	－	Ⅱ層なし
T15	67.0	0.4	風倒木	－	Ⅱ層なし
T16	23.5	0.6	風倒木・穴	－	Ⅱ層なし
T17	48.6	0.5	風倒木・穴	－	Ⅱ層なし
T18	36.0	0.6	－	－	Ⅱ層なし
T19	51.7	0.4	－	－	Ⅱ層なし
T20	86.0	0.4	風倒木・穴	縄文土器・伊万里	Ⅱ層なし
T21	36.0	1.2	－	－	Ⅱ・Ⅲ層なし
T22	35.5	0.3	－	縄文土器	Ⅱ層なし
T23	5.0	0.9	－	－	
T24	33.8	0.6	－	縄文土器・石皿・伊万里	
T25	28.0	0.5	穴	－	Ⅱ層なし
T26	33.5	0.3	－	現代陶磁器	Ⅱ・Ⅲ層なし
T27	76.0	0.4	風倒木・穴	縄文土器	Ⅱ層なし
T28	36.2	0.3	－	－	Ⅱ・Ⅲ層なし
T29	55.4	0.8	土坑	縄文土器	
T30	14.0	1.6	－	縄文土器・伊万里	
T31	62.2	0.3	溝・土坑	越中瀬戸・現代陶磁器	
T32	54.4	0.4	溝・土坑	縄文土器・伊万里・唐津・越中瀬戸	
T33	39.6	0.3	－	縄文土器・伊万里・越中瀬戸	Ⅱ・Ⅲ層なし

第6表　下山新東遺跡トレンチ一覧

5．下山新遺跡

調査対象地

下山新遺跡は黒部川の隆起扇状台地の縁辺部にあたり、調査範囲西側は段丘崖となっている。一帯は昭和47年と48年に県営ほ場整備事業に先立つ発掘調査が行われており、今回の調査範囲は遺跡範囲の縁辺部にあたる。試掘トレンチは計13本設置し、対象面積は3,420㎡である。

基本層序

Ⅰa 層	現耕作土	黒褐色シルト（15cm～20cm）
Ⅰb 層	整地土	褐灰色砂質土（10cm～30cm）
Ⅱ 層	縄文時代遺物包含層	黒褐色粘質土・黒褐色砂質土（20cm～30cm）
Ⅲ 層	縄文時代遺構検出面	黒色シルト（20cm～40cm）
Ⅳ 層	地山	橙色粘質土

調査結果

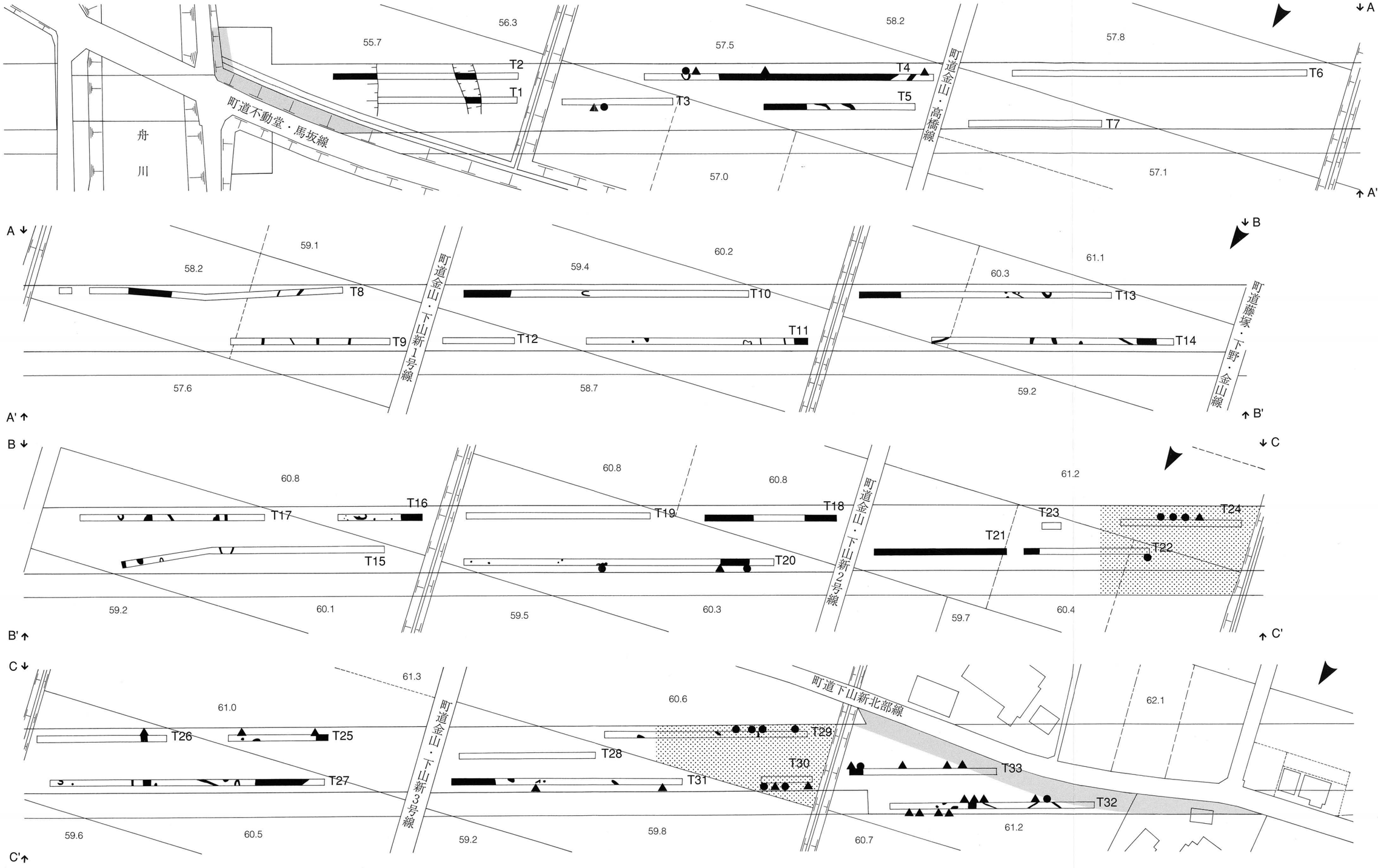
調査は対象範囲の西側から行い、現耕作土・整地土下には縄文時代の遺物包含層であるⅡ層が良好な状態で遺存していることが確認できた。トレンチはすべてⅣ層まで掘削したが、Ⅲ層の黒色シルトからは遺物は出土せず、Ⅲ層上面が遺構検出面と考えられる。調査範囲中央を横切る県道舟見・入善線の両側のＴ３・６では県道に向かって次第にⅡ層が削平され、耕土直下がⅣ層となっていることから旧地形では県道部分が微高地で東西の両側に向かって緩やかに傾斜していたようである。当初予定の調査範囲の東端にあたるＴ４を調査した結果、そこでもⅡ層が安定して遺存し、遺物の出土も認められたことから、遺跡の東側への広がりを確認すべく、下山新東遺跡との間にＴ７～13を設定し、試掘確認調査を続行した。その結果、Ｔ７までは包含層の遺存と遺物の出土が認められたがＴ９より東は田面が一段下がっており、ほ場整備による削平を受けて、包含層は残っていなかった。

調査ではⅣ層の地山まで掘削したので、検出した遺構はすべて土層の断面観察によるものである。特にＴ１・４で土坑や穴が多く認められた。Ｔ６では南北方向の小規模な谷が見つかっている。遺物には、縄文土器と打製石斧がある。縄文土器はすべて小破片で量も少ないが、縄文時代前期前葉・中期前葉から後葉までの特色をもったものが出土している。

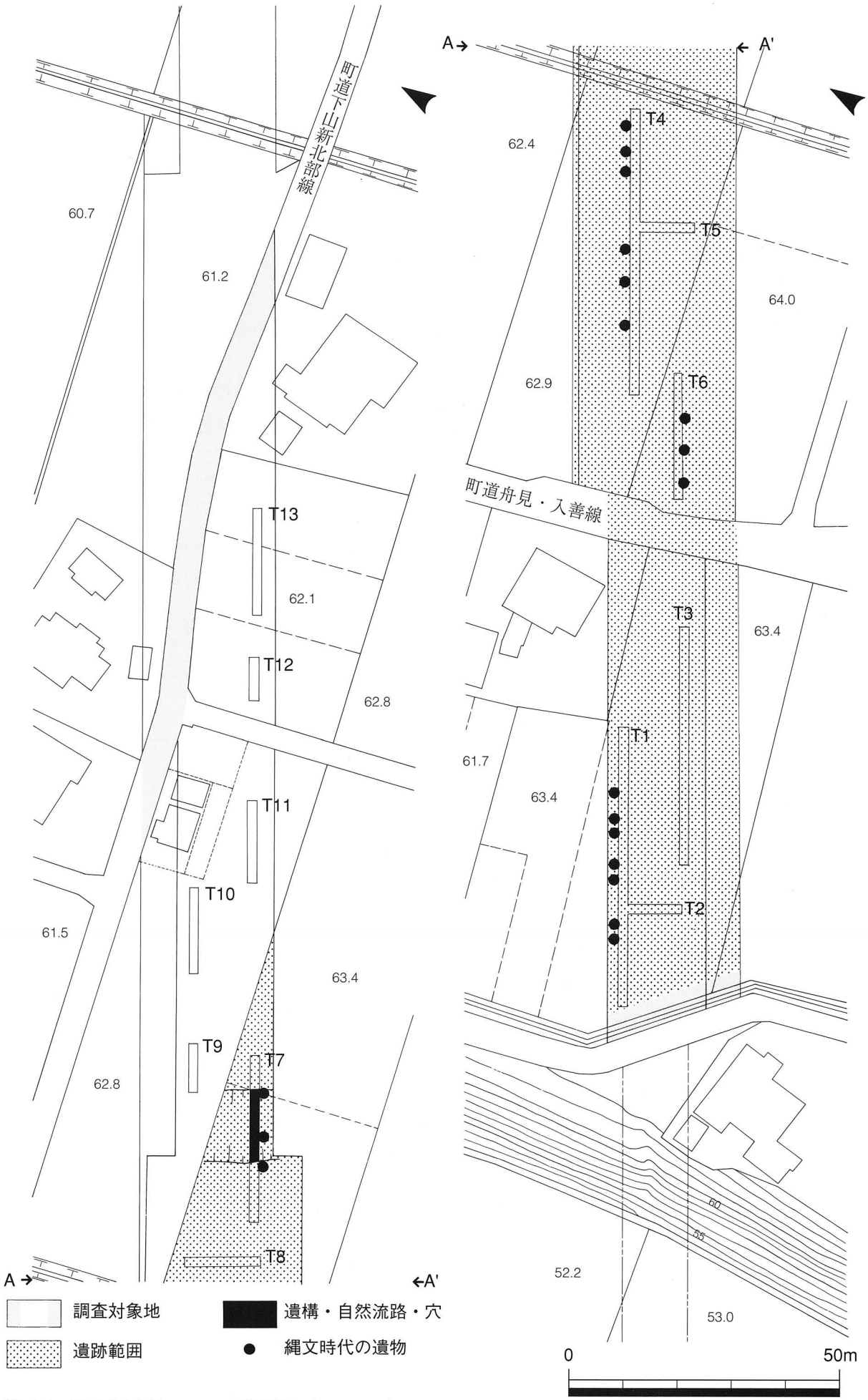
下山新遺跡は、Ｔ７以西において良好な遺物包含層が遺存しており、遺構・遺物の散布も認められた。今回の調査の結果によって本調査の対象となるのは、東への広がりを確認した部分を加えた5,190㎡である。また、試掘調査対象範囲外となってはいるが、遺跡が段丘落ち際までのびている可能性がある。

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	検出遺構	出土遺物	備考
T1	50.0	0.8	穴7	縄文土器	
T2	9.5	0.8	穴1	－	
T3	43.5	0.6	穴1	－	東側はⅡ・Ⅲ層なし
T4	50.0	0.7	穴6	縄文土器	
T5	8.0	0.6	穴1	－	
T6	23.5	1.0	穴1	縄文土器・打製石斧	
T7	30.0	0.6	谷	縄文土器	
T8	14.0	0.6	－	－	北側攪乱あり
T9	7.5	0.2	－	－	Ⅱ層なし
T10	15.5	0.3	－	－	Ⅱ層なし
T11	14.5	0.8	－	縄文土器・越中瀬戸	Ⅱ層わずかに残る
T12	8.0	0.4	－	縄文土器	Ⅱ層なし
T13	18.0	0.9	穴?2、流路1	－	Ⅱ層なし、流路は近世以降

第７表　下山新遺跡トレンチ一覧



第5図　下山新東遺跡トレンチ位置図（1：1000）



第6図　下山新遺跡トレンチ位置図（1.：1000）

Ⅳ　小括

平成12年度に行った５遺跡の試掘確認調査の結果は以下の通りである。

1．昨年に続き調査を行った竹ノ内Ⅱ遺跡では、西側の町道長野・南部線まで遺跡の広がりを確認した。また、山際の県道山崎・泊線の西側では、古代と中世が重層してみられるが、スーパー農道西では中世単層となる。

2．柳田遺跡では、主要地方道朝日・泊線から西で中世及び縄文時代の遺物・遺構を確認した。遺跡の広がりは、朝日・泊線から西に約300mである。

3．井ノ口城跡では、わずかな遺物が出土したものの遺跡の性格・範囲を特定できなかった。宅地部分については今後、確認調査を行う予定である。

4．下山新東遺跡では、２箇所で遺物包含層を確認した。時代は、縄文晩期と後期である。

5．下山新遺跡では、縄文時代前期前葉と中期前葉～後葉にかけての遺物が確認された。遺跡の範囲は、河岸段丘の際から県道舟見・入善線の東約130mあたりまで広がる。

遺跡名	トレンチ番号	本調査対象面積	出土遺物	遺跡の時代
竹ノ内Ⅱ遺跡	8T～24T	7,005（延10,221）	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲	奈良・平安・室町
柳田遺跡	1T～22T	7,320	縄文土器・叩石・石刀・珠洲・白磁	縄文・室町
井ノ口城跡	1T～25T	－	縄文土器・叩石	
下山新東遺跡	1T～33T	1,447	縄文土器・石皿・伊万里・唐津・越中瀬戸	縄　文
下山新遺跡	1T～13T	5,190	縄文土器・打製石斧	縄　文
総計		20,962 （延24,178）		

第８表　平成12年度試掘確認調査一覧

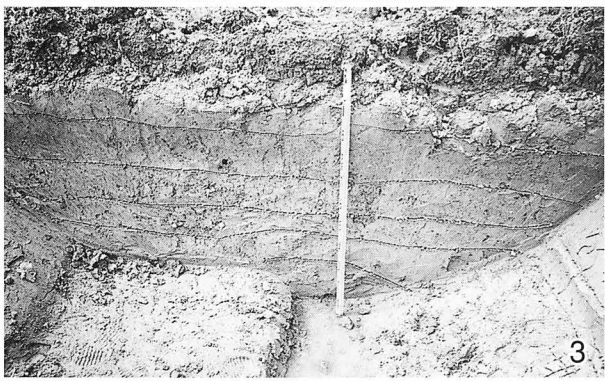
引用・参考文献

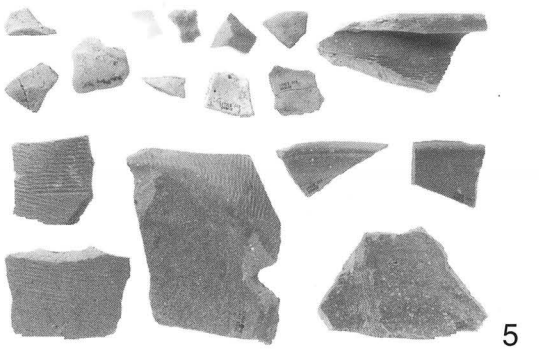
『朝日町史』　1984

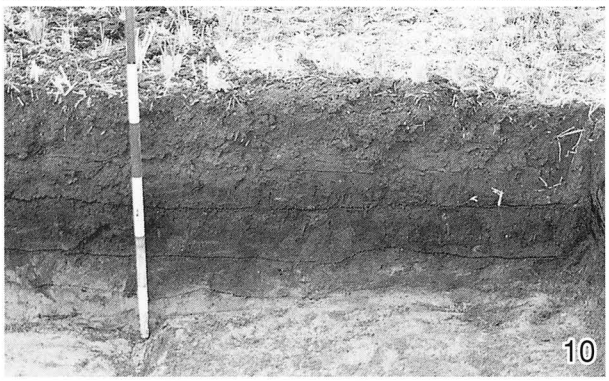
『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告　ＨＳ－11・ＨＳ－12・ＨＳ－13』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2000

図版1　竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡(1964年撮影)

図版2　竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡(1988年撮影)



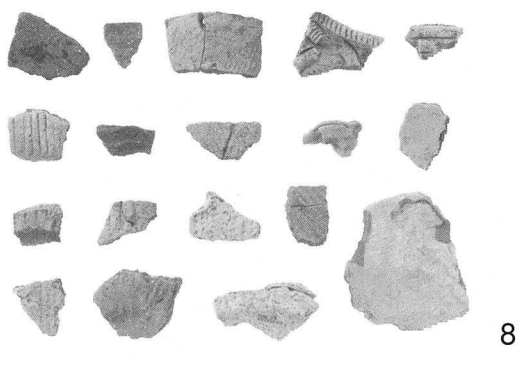




図版3　1・2. 竹ノ内Ⅱ遺跡T13遺構　3. 同T14層位　4. 同T14遺構　5. 同出土遺物　6. 同T16遺構
7. 同T16全景　8. 同作業風景　9. 柳田遺跡T4全景　10. 同T6層位

図版4　1. 柳田遺跡Ｔ6遺構　2. 同Ｔ7全景　3. 同Ｔ7遺構　4. 同Ｔ9遺構　5. 同出土遺物　6. 同Ｔ21遺構
7. 同Ｔ13谷　8. 同Ｔ17全景　9. 井ノ口城跡Ｔ1全景　10. 同Ｔ6層位

図版5　1. 井ノ口城跡Ｔ14全景　2. 同Ｔ22全景　3. 同Ｔ25全景　4・5. 同作業風景　6. 下山新東遺跡Ｔ30全景　7. 同Ｔ24全景　8. 同出土遺物



図版6　1. 下山新東遺跡Ｔ24層位　2. 同Ｔ29遺構　3. 同作業風景　4. 下山新遺跡Ｔ1全景　5. 同Ｔ7全景
6. 同Ｔ1層位　7. 同Ｔ4遺構　8. 同出土遺物

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞうちちょうさほうこく
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（2） ―竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡―
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第13集
編著者名	酒井重洋、島田美佐子、町田賢一、野口雅美
編集機関	財団法人富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930-0887　富山県富山市五福4384番1号　TEL 076-442-4229

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
竹ノ内Ⅱ遺跡	あさひまちながの 朝日町長野	3430	87	36° 55′ 54″	137° 34′ 20″	20000417 ～ 20000420	1,047	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
柳田遺跡	あさひまちあざとのまち 朝日町字殿町	3430	63	36° 55′ 28″	137° 33′ 36″	20001016 ～ 20001025	754	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
井ノ口城跡	あさひまちおおえのしょう 朝日町大家庄	3430	88	36° 55′ 20″	137° 33′ 10″	20001019 ～ 20001025	865	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
下山新東遺跡	あさひまちにざやましん 朝日町下山新	3430	68	36° 54′ 52″	137° 32′ 23″	20001016 ～ 20001027	2,664	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査
下山新遺跡	あさひまちにざやましん 朝日町下山新	3430	69	36° 54′ 46″	137° 32′ 03″	20001025 ～ 20001027	496	北陸新幹線建設に伴う試掘確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
竹ノ内Ⅱ遺跡	集落	古代		須恵器・土師器	
		中世	溝・土坑	中世土師器・珠洲	
柳田遺跡	集落	縄文	溝・土坑	縄文土器・石刀・叩石	
		中世		珠洲・白磁	
井ノ口城跡				縄文土器	本調査を必要としない
下山新東遺跡	集落	縄文		縄文土器・石皿	
下山新遺跡	集落	縄文	土坑	縄文土器・打製石斧	

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第13集

北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(2)

ー竹ノ内Ⅱ遺跡(長野地区)・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡ー

編集・発行　財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887　富山市五福4384番1号
TEL　074-442-4229

発　行　日　2001(平成13)年3月30日

印　　刷　株式会社　ニッポー